

【 野菜 】

トマト灰色かび病

8月下旬調査（管内5か所）の結果では、灰色かび病の発病株率が97.3%（平年25.8%）（図1）と非常に多く発生しています。また、8月上旬調査（管内3か所）の結果ではゴーストスポット果（表面にリング状の白い斑点が現れた果実）率が、31.8%（平年1.1%）（図2）と多く発生しています。

本病の発生を抑制するため、発病した果実や葉、枯死した花卉や葉先枯れ部はこまめにほ場外へ持出し処分してください。また、脇芽かき、下葉かき等を適切に行い風通しを良くするとともに、予防防除に努めてください。なお、農薬を散布する場合は耐性菌を発生させないように、同系統の薬剤を連用せずローテーション防除を徹底してください。

【 果樹 】

果樹カメムシ類（特にチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ）

高山市国府町に設置した予察灯での果樹カメムシ類の累計誘殺数（8月第1～第4半旬）は、チャバネアオカメムシが770.0頭（平年110.6頭）（図6）、クサギカメムシが、1,142.0頭（平年334.5頭）（図7）ツヤアオカメムシが277.0頭（平年10.4頭）（図8）、と非常に多くなっています。本虫は、周囲の山林でスギ・ヒノキ等の樹木類にエサとなる球果が少ない場合は、果樹園への飛来が多くなる場合があります。

また、気温が高いと活動が活発になるため、園内をこまめに確認し飛来が認められる場合は薬剤防除を実施してください。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測（9月）

病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項	
		1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬		
ホウレンソウ	べと病	並	< 20℃前後で発生 >						べと病 感受性品種では、月後半に発生の恐れがあることから薬剤の予防散布を行う。 コナダニ類 盛夏を過ぎるとほ場により多発することがあるため、発生に注意する。
	コナダニ類	並	< 盛夏を超えると多発 >						
	防除適期		▲←		▲←		▲←	→▲	
トマト	灰色かび病	やや多	< 多湿条件下で多発 >						灰色かび病 花がらや葉先枯れはすぐに除去する。発生後はできるだけ早い時期に治療効果が高い薬剤で進行を止める(葉かび病も同様)。同一系統薬剤の連用は避ける。 葉かび病 樹勢低下防止と防除を徹底する。
	葉かび病	並	< 多湿条件下で多発 >						
	防除適期		▲←		▲←		▲←	→▲	
野菜全般	アブラムシ類	並	< 有翅虫飛来に注意 >						アブラムシ類 有翅虫が確認されたら防除を行う。 タバコガ類 防虫ネットの被覆がない場合は注意する。若齢幼虫期に薬剤防除を行う。
	タバコガ類	少	< 幼虫発生最盛期 >						
	防除適期		▲←		▲←		▲←	→▲	
果樹全般	生育(高山市)	並							(生育はリンゴ) カメムシ類 飛来が認められた場合は直ちに防除を実施する。飛来は、夜温が高く、高湿度、風の弱い日に多くなる傾向があるため天候に注意する。
	カメムシ類	多	< 第1世代成虫 >						
	防除適期		▲←		▲←		▲←	→▲	

注) ▲、▲←→▲: 防除適期

調査データ

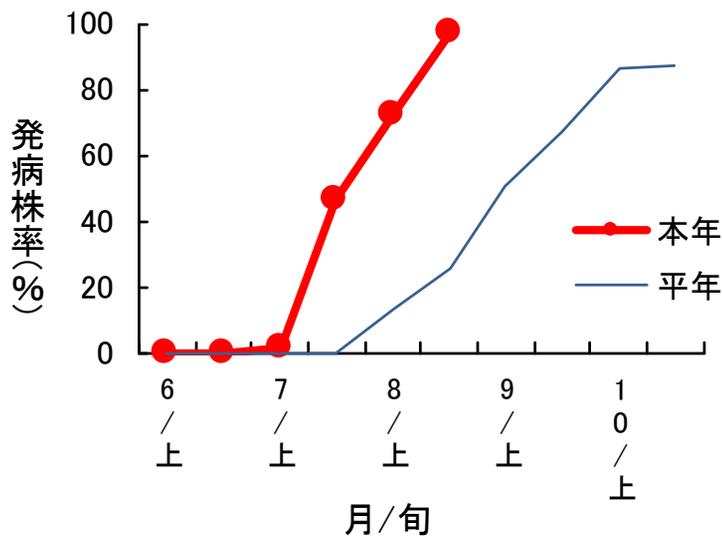


図1. 灰色かび病発病株率の推移 (飛騨管内5地点平均)

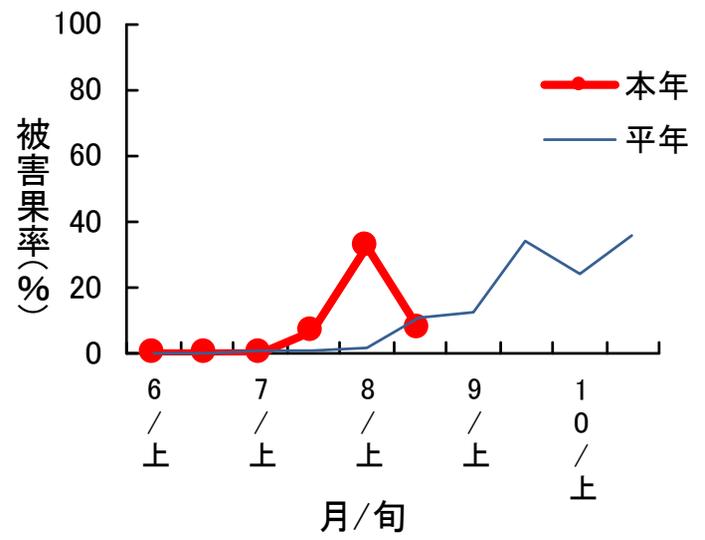


図2. ゴーストスポット果率の推移 (飛騨管内5地点平均)



図3. ガクから侵入した灰色かび病



図4. 葉先枯れ部分に感染した灰色かび病



図5. ゴーストスポットを生じた果実

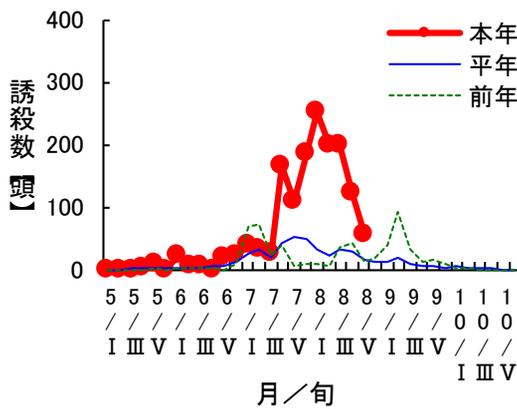


図6. チャバネアオカメシ誘殺数の推移 (高山市国府町果樹全般)

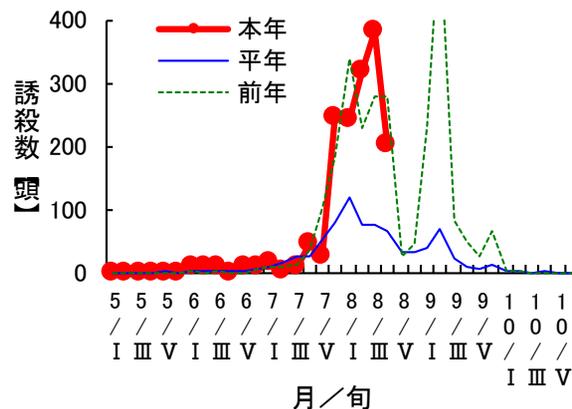


図7. クサギカメシ誘殺数の推移 (高山市国府町果樹全般)

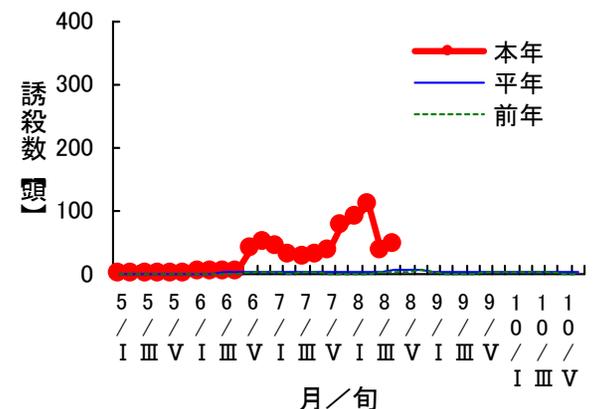


図8. ツヤアオカメシ誘殺数の推移 (高山市国府町果樹全般)

東海地方1か月予報 (名古屋地方気象台 8月27日発表)

向こう1か月の気温は高く、降水量及び日照量は、ほぼ平年並みの見込みです。月のはじめの天気は数日の周期で変わりますが、湿った空気の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/>

飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町 7-468 TEL (0577) 33-1111(内線 245) FAX (0577) 34-2706